

Course number		U-LAS04 10010 LJ45					
Course title (and course title in English)		社会学Ⅰ Sociology I		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Human and Environmental Studies Professor, Haruka Shibata	
Group		Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Pedagogy, Psychology and Sociology(Foundations)	
Language of instruction		Japanese		Old group		Group A	
Number of weekly time blocks		1		Class style		Lecture (Face-to-face course)	
Year/semesters		2025・First semester		Number of credits		2	
Days and periods		Mon.3/Tue.2		Target year		All students	
Eligible students		For all majors					
[Overview and purpose of the course]							
<p>自分が生きているこの社会は、どのような「しくみ」で動いているのか？ この社会は、これからどうなるのか？ この社会で自分が「幸せに生きる」には、どうしたらいいのか？ この社会を「より多くの人々が幸せに生きられる社会」にするには、どうしたらいいのか？</p> <p>社会学は、こういった問題に取り組むために（19世紀西欧を発祥として）築き上げられてきた学問である。したがって社会学は、現代社会を生きる私たち一人一人にとって、「生きる糧」になりうる。</p> <p>そこで本授業では、社会学的思考法を伝授する。社会学的思考法とは、「社会現象を成立させている『構造とコミュニケーションの相互影響関係』に着目する思考方法」である。本授業では、社会学の基礎研究や応用研究を紹介し、社会学的思考法のトレーニングの機会を設ける。そのことにより、受講生が自分の専門の研究や今後の日常生活において、必要に応じて社会学的思考法を用いて、専門研究をより豊かにしたり、今後の生活をより幸福なものにしたりできるようになることをめざす。</p> <p>（なお、同教員の後期の「社会学Ⅱ」よりも基礎研究に重点を置いた授業方針となるため、毎回の内容もモードが異なる。）</p>							
[Course objectives]							
<p>社会学的思考法を用いて、現代のさまざまな社会現象や自分自身の人生・生活の背景にある「しくみ」（社会構造とコミュニケーションの相互影響関係）について、基礎的な水準で考察できるようになる。</p>							
[Course schedule and contents]							
<p>基本的に、以下の計画に従って講義を進める。ただし、受講者の状況などに応じて、順番や内容を変更する可能性がある。</p> <p>また、社会学的思考法を活用できるようになるために、「問いの共有」や「討論」などを行う。</p>							
<p>第1回 これからの社会はどうなるのか</p> <p>第2回 社会学の基礎（1）定義・意義・背景 PDF「社会学の基礎と応用」第1章</p> <p>第3回 社会学の基礎（2）主要諸理論（1） PDF「社会学の基礎と応用」第2章</p> <p>第4回 社会学の基礎（3）主要諸理論（2） PDF「社会学の基礎と応用」第3章</p> <p>第5回 社会学の基礎（4）主要諸理論（3） PDF「社会学の基礎と応用」第4章～第5章5.1</p>							
<p style="text-align: right;">Continue to 社会学Ⅱ (2)</p>							

社会学Ⅰ(2)

- 第6回 小括討論
第7回 社会学の基礎(5) 資本主義と社会保障の起源(1) PDF「資本主義と社会保障の起源」114～133頁
第8回 社会学の基礎(6) 資本主義と社会保障の起源(2) PDF「資本主義と社会保障の起源」134～149頁
第9回 社会学の応用(1) 社会保障の効果(1) PDF「子どもの貧困と子育て支援」
第10回 社会学の応用(2) 社会保障の効果(2) 内閣府「選択する未来2.0」講演資料(PDF配布)
第11回 小括討論
第12回 社会学の応用(3) AIがもたらす未来(1) PDF「不可知性の社会」244～260頁
第13回 社会学の応用(4) AIがもたらす未来(2) PDF「不可知性の社会」260～272頁
第14回 総合討論 これからの社会をどう生きるか、どう変えるか
第15回 フィードバック(詳細は授業中に説明)

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

「ほぼ毎回の確認テスト」(50点)と「毎回の討論におけるパフォーマンス」(10点)と「毎回の小レポート」(40点)により、到達目標の達成度について評価する。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

(References, etc.)

柴田悠『子育て支援が日本を救う 政策効果の統計分析』(勁草書房) ISBN:4326654007(社会政策学会の学会賞を受賞。日経新聞・朝日新聞・読売新聞などで書評・インタビューが掲載。)

柴田悠『子育て支援と経済成長』(朝日新聞出版) ISBN:4022737069(朝日新書606。日経新聞・朝日新聞・読売新聞などで書評・インタビューが掲載。)

(Related URL)

<https://sites.google.com/site/harukashibata/profile>(教員紹介のページ)

[Study outside of class (preparation and review)]

予習は、次回に扱う文献が指定されていれば、それを事前に読んで、「確認テスト」をPandAで受験しておくこと。文献が指定されていなければ、授業内容と関連する本やニュース記事、ドキュメンタリー番組などをできるだけ通読・視聴しておくこと。

復習は、毎回の授業内容をふりかえり、関連情報を調べたうえで、「小レポート」をPandAで提出すること。不明点については、講義中かPandAフォーラムにて教員に質問すること。

毎回の予習・復習の時間配分は、予習120分、復習120分を目安とする。

[Other information (office hours, etc.)]

履修人数をアクティブラーニングに適した人数に制限する。

また毎回、Googleスプレッドシートを用いた意見交換を行うため、Googleスプレッドシートの閲覧・入力がしやすい端末(ノートPC・タブレット等)を毎回持参すること。